

布引の滝周辺マップ

周辺観光施設



● 布引の滝

神戸を代表する名勝の地として知られており、上から雄滝、夫婦滝、鼓ヶ滝、雌滝の4つの滝を総称して「布引の滝」と呼んでいます。この滝には、古来から数多くの貴族や歌人が訪れており、「伊勢物語」などの古典文学作品などにもしばしば登場します。また、滝には竜宮城の乙姫さまが住んでおり、布引の滝が白く見えるのは、この乙姫が着ている白い布がさらされているからだといわれています。



雄滝

● 徳光院

明治38(1905)年に川崎造船所の創業者、川崎正藏が建立したものです。境内にある多宝塔は、もと明王寺(垂水区名谷町)にあったものを正藏が移築したもので、国の重要文化財に指定されています。境内の紅葉が大変美しく、地元お勤めの紅葉スポットです。



● みはらし展望台

神戸の市街地が一望できる、大変眺めの良いオススメ休憩スポットです。神戸空港やハーバーランド、天気の良い日は、関西国際空港まで見えます。ここには、「毎日登山」をされる方の署名所があります。



● さるのかずら橋

布引の滝上流にある橋であり、平成18年に六甲山国立公園編入50周年記念事業の一つとして徳島の「祖谷のかずら橋」風に飾り付けられました。ツルは繁殖しすぎると樹木の成長を妨げるため、茂りすぎたツルを刈り取り、欄干に巻きつけています。



● 五本松かくれ滝

布引ダムの横には、雨が降ってダムが満水になり、放流する時だけ現れる滝があります。この幻の滝には、公募によって平成19(2007)年に「五本松かくれ滝」という名前がつけられました。



● 布引ダム(布引貯水池)

正式名称は「五本松堰堤」とい、明治33(1900)年に完成した日本最古の重力式コンクリートダムです。文化的な価値を損なわずに耐震補強工事が実施され、現在も良好な状態で保存・使用されている全国的にも数少ない明治時代からの現役の水道施設です。布引ダムの他、ハイキングルート入り口にあるレンガ積の砂子橋などを含めた布引水源地下水道施設は、平成18(2006)年に国の重要文化財に指定されています。



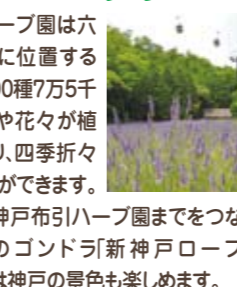
● 滝山城址の碑

滝山城は、標高323mの城山にあった中世の山城です。現在、山の頂上には「史蹟 滝山城址」の大きな石碑が建っています。築城年代、築城者とも不明です。戦国時代には松永久秀がここに拠り、猿楽や連歌の宴を催しました。



● 神戸布引ハーブ園と新神戸ロープウェー

神戸布引ハーブ園は六甲山の中腹に位置する公園で、200種7万5千株のハーブや花々が植えられており、四季折々に楽しむことができます。麓の駅から神戸布引ハーブ園までをつなぐ6人乗りの Gondol「新神戸ロープウェー」からは神戸の景色も楽しめます。



布引三十六歌碑

明治のはじめ頃、「花園社」という市民団体が、平安時代から江戸時代に詠まれた滝にまつわる名歌三十六の碑を建立しました。その後散逸していましたが、新神戸駅からみはらし展望台までのハイキングコースや、生田川沿いの生田川公園に全て復興されました。

- | | | |
|----|-----------------|-------|
| 1 | 布引の滝のしらいとなつくれば | 藤原定家 |
| 2 | あしのやの砂子の山のみなかみを | 藤原基家 |
| 3 | 布引の滝の白糸わくはばに | 藤原行能 |
| 4 | 津の国の生田川の水上は | 藤原基隆 |
| 5 | 水の色たた白雪と見ゆるかな | 源 顕房 |
| 6 | 音のみに聞きはことの数ならて | 藤原良清 |
| 7 | さらしけむ甲斐もあるかな山姫の | 藤原師実 |
| 8 | 山人の衣なるらし白妙の | 藤原良経 |
| 9 | 山姫の嶺の梢にひきかけて | 源 俊頼 |
| 10 | 幾世とも知らぬものは白雲の | 藤原家隆 |
| 11 | いかなれや雲間も見えぬ五月雨に | 藤原俊成 |
| 12 | 岩はしるおとは水にとさされて | 源 経信 |
| 13 | 白雲とよそに見つれと足曳の | 寂蓮法師 |
| 14 | 水上の空に見ゆれば白雲の | 藤原師通 |
| 15 | 呉竹の夜の間に雨の洗ひほして | 西園寺実氏 |

- | | | |
|----|-------------------|-------|
| 16 | うちはへて晒す日もなし布引の | 藤原為忠 |
| 17 | 水上は霧たこめて見えねども | 高階為家 |
| 18 | 水上はいつなるらむ白雲の | 藤原親親 |
| 19 | 岩の間より落ち来る滝の白糸は | 藤原盛方 |
| 20 | 松の音琴に調ふる山風は | 紀 貫之 |
| 21 | たち縫はぬ紅葉の衣そめ出でて | 順徳院 |
| 22 | ぬきみたる人こそあるらし白たまの | 在原業平 |
| 23 | 我世を今日か明日かと待つ甲斐の | 在原行平 |
| 24 | 雲井よりつらぬきかくる白玉を | 藤原隆季 |
| 25 | 久かたの天津乙女の夏衣 | 藤原有家 |
| 26 | ぬのひきのたき見てけふの日は暮れぬ | 澄覚法親王 |
| 27 | たち縫はぬ衣着し人もなきものを | 澄覚法親王 |
| 28 | ぬしなくて晒せる布を棚はたに | 伊勢 長盛 |

- | | | |
|----|-----------------|------|
| 29 | 雲かすみたてぬきにして山姫の | 加藤枝直 |
| 30 | 主なしと誰かひけむりたりて | 小沢蘆庵 |
| 31 | くりかえし見てこそ行かぬ山姫の | 鈴木重嶺 |
| 32 | 布引の滝のたきつ瀬音にきく | 賀茂真淵 |
| 33 | たち縫ぬ絹にしあれと旅人の | 賀茂季鷹 |
| 34 | 布引のたきのしらいとつちはへて | 後鳥羽院 |
| 35 | 世と共にこや山姫の晒すなる | 後鳥羽院 |
| 36 | たちかへり生田の森の幾度も | 源 雅実 |
| 37 | 千代かけて雄たき女流の結ほれし | 作者不詳 |
| 38 | みそよつのひに響けり山姫の | 太田錦里 |
| 39 | 涼しさや嶋へかたふく夕日かけ | 布引坊 |